

千歳市立高台小学校 学校通信
全国学力・学習状況調査概要版

令和3年11月22日発行



令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果

保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動にご理解とご協力をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

さて、本年5月に実施いたしました全国学力・学習状況調査の結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。本校ではこの調査結果を踏まえ、児童の学力向上に向けたプランを作成し、学校の教育計画や日常の授業改善に取り組んでまいります。

【教科に関する調査結果】

国語 全国の平均正答率と比較して、低い結果でした。

①領域別の結果

右表は、全国の平均正答率を100とした指数で、4つの領域の本校の正答率を棒グラフで示したものです。

話すこと・聞くこと

この領域の設問は3問でしたが、スピーチの構成を考える設問が特に難しかったようです。無解答率は0%と、6年生の頑張りを感しました。

書くこと

この領域の設問は2問で、理由を明確にして自分の考えを伝える設問が難しかったようです。また、条件にあった記述の仕方と合致していない解答や論理的なつながりに欠ける記述も、多く見られました。無解答率は全国と同様でした。

読むこと

この領域の設問は3問でしたが、中心となる文を見つけて要約する問題が特に難しかったようです。読み込んでいる内容・範囲は間違っていないのですが、何が答える内容なのかをきちんと把握し、解答することが今後求められる力となります。無解答率は全国と同様でした。

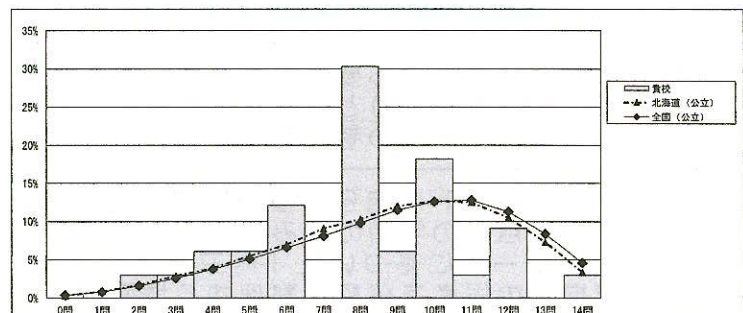
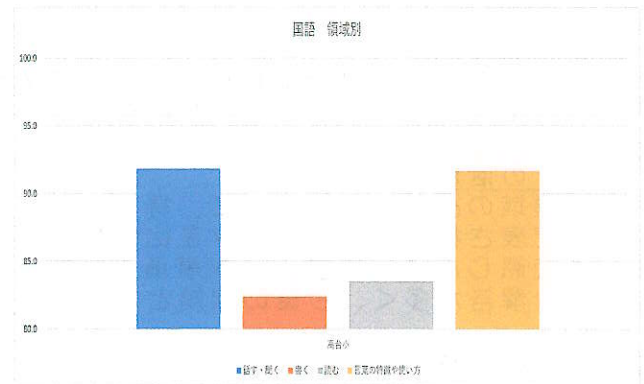
言葉の特徴や使い方に関する事項

この領域の設問は6問ありますが、漢字の書き取りが特に難しかったようです。無解答率は、「原因」の書き取りが全国よりも高かったですが、それ以外は全国を下回っています。

②正当数の分布

正当数8問の児童の割合が多く、次いで6問・10問の児童の割合が全国よりも高くなっています。

また、6問以下の児童の割合が全国よりも多く、正当数が11問以下の児童は全国を下回っており、いわゆる下位層がやや多く、上位層が少ない状況が見られます。



算数

全国の平均正答率と比較して、ほぼ同様の結果でした。

① 領域別の結果

数と計算

この領域の設問は4問でした。設定された場面から数量の変化をとらえて立式し、計算をすることができています。無解答率も全国を下回っています。

図形

この領域の設問は3問でした。複数の図形を組み合わせた面積について、図形の構成の仕方をとらえて比較し、解答することができています。

しかし、他の基本事項の設問が正答率が低く、他の領域と比較して低い結果となっており、今後の課題として残っています。無解答率は全国を下回っています。

測定

この領域の設問は3問でした。条件に合う時刻を求める設問はきちんとできていました。

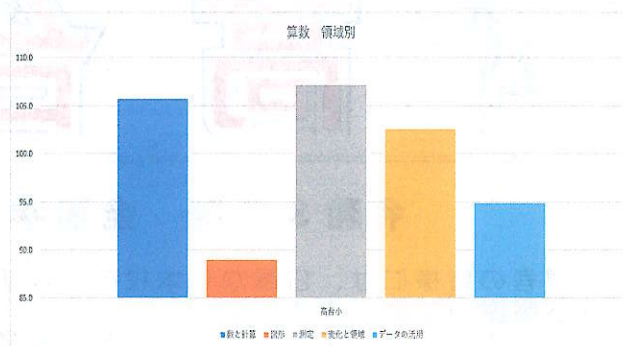
上記の図形領域で記述した設問は、測定領域にも含まれており、条件に即した思考を行っていることが見とれます。無解答率は全国を下回っています。

変化と関係

この領域の設問は3問でした。速さと道のりを基にして時間を求める等、どの設問も全国と同様の結果を示しており、着実な成長を示しています。無解答率は全国を下回っています。

データの活用

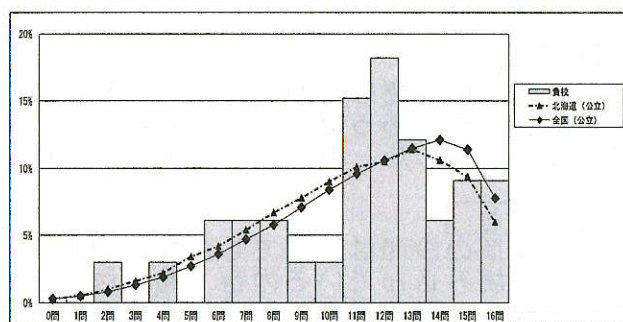
この領域の設問は5問でした。棒グラフから数量を読み取る設問はほぼできていますが、帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目・割合を記述する設問は、難しさを感じたようです。基本事項の把握を応用したり、記述する点で惜しくも正答とはならなかった解答が多く、今後の課題となります。無解答率は全国を下回っています。



② 正当数の分布

正当数 1・1・12問の児童の割合が多くなっています。9問・10問の児童の割合が極端に少なく、6問以下の児童の割合が全国よりも多くなっていることから、得手不得手の差が開いてきていることが、データからも読み取れます。

基本事項を理解しながら記述面の細かな不備から誤答となっているものも多く、細かな解答への配慮をすることが大切になってきます。



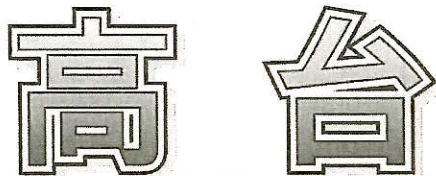
○ 今後の課題に対する取組

今回の全国学力・学習状況調査だけではなく、本校ではNRT（標準学力検査）にも取り組んでいます。また、中学校に入ると記述解答の場面が増え、記述量も急激に増大します。両調査・検査の結果等から、以下のような意識を持ち、今後の取り組みを進めます。

- 知識を活用するうえで必要となる基礎・基本的事項を、しっかりと身につける。
- 設問を最後までしっかりと読み込み、求められている事項を把握する。
- 記述する際には、自らの考えを整理し、つなぎを意識して順序良く記述する。

- 授業や学習プリントに自ら積極的に取り組み、漢字書き取り・計算能力を確実なものにするとともに、自らの学習の積み重ねに自信を持たせる。
- 高台スタンダードに基づいた「ペア学習」「グループ学習」を授業で展開し、他者とかかわる中で自らの思考を確認・整理する場面を増やす。
- 「聞く」「書く」等の知識を取り込む活動を重視し、学習習慣を確実に身につけさせる。

国語・算数で、特に気になった設問について、別紙詳細版でお知らせします。



千歳市立高台小学校 学校通信
全国学力・学習状況調査詳細版



令和3年度 全国学力・学習状況調査より <国語>

保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動にご理解とご協力をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

さて、本年5月に実施した全国学力・学習状況調査の結果概要を先日お知らせしましたが、この号では国語の中で注目した設問を通して、今後に向けた考えをお伝えいたします。

【注目した設問】 国語 **2** 四 正答率…18.2% 無回答率…5.8%

2

相川さんの学級では、身近にある便利なものについて調べています。相川さんは、面ファスナーを選びました。次は、相川さんが読んだ『資料』です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【資料】

面ファスナー

面ファスナーは、かさやくつなど、さまざまな製品の留め具として使われています。簡単にくっついたり、はがしたりすることができ、とても便利な道具です。

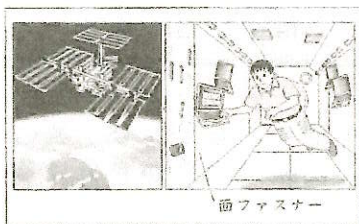
面ファスナーは、一九四八年にスイスで起こったある登山に登ったジョルジュ・デ・メストラルは、愛犬をつれてゴボウの実がたぐさんでいる。どしどし気がつき、不思議に思い、その実を片手帰って顕微鏡でくわしく調べてみると、ゴボウの実の曲がったかき状のトゲでおおわれていることがわかりました。そのトゲが犬の毛にからみついていたのです。このことをヒントにメストラルは研究を重ね、数年後、特許を申請し、面ファスナーを作り出しました。

一九六〇年に、日本ではじめて面ファスナーの製造・販売が始まりました。しかし、そのよさや使い道はなかなか世の中に伝わりませんでした。広く知られるようになったきっかけは、一九六四年十月の東海道新幹線の開業でした。新幹線の座席のヘッドレストカバー（頭をあてる布）の留め具として、面ファスナーが採用されたのです。新幹線の清掃作業の際には、

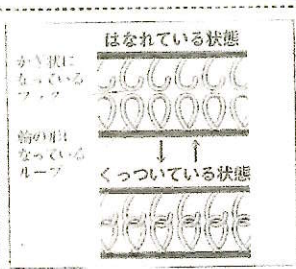
短時間でヘッドレストカバーを交換する必要があります。そのため、一つ一つ取り外さなければならぬボタンやボタンより留め外しの簡単な面ファスナーの方が、留め具として適していたのです。誰もが注目する新幹線に使われたことで話題となり、その存在が日本中に知られるようになりました。

一九八〇年代には、私たちの身近にある製品でも使われるようになりました。財布やかばん、かさなどの家庭用品をはじめ、スポーツや血圧計の巻き付けバンドなどの医療用品にも広がっていききました。布のように柔軟性があり、物や体の形にぴったり合わせることができる面ファスナーが適していたからです。中でも大流行したのが、面ファスナーを使った運動着でした。ひもくつに比べ、手間をかけずに目的や好みに合わせてしめくあいを調節することができ、よさが支持されたのです。同時に、素材の開発も進められ、

また、しっかりとくっつき簡単にはずすことができる面ファスナーは、宇宙でも使われています。地球のまわりを回る国際宇宙ステーションの中には無重力状態のため、物がうがひます。そこで活躍しているのが面ファスナーです。国際宇宙ステーション内のかべや天井には、あらゆる場所に面ファスナーがつけられています。ペンやスプーン、カメラやコンピュータなど、身の回りの全ての物が固定できるようになっているのです。一人の気づきから誕生した面ファスナーは、人びとの要求にたえる形で、活躍の場を広げてきました。身近な生活場面だけでなく、宇宙空間にまで広がり、さらなる便利さが追求されています。



国際宇宙ステーションとその内部



面ファスナーの仕組み



- 一 資料の文章は、何について、どのように書かれていますか。（選択式）
- 二 資料の文の中の「より」と同じ使い方をしているのは、どれですか（選択式）
- 三 細川さんは面ファスナーのくっつく仕組みについて考えています。メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出しましたか。次の条件に合わせて書きましょう。（記述式・50字以上80字以内）

招川さんは、「資料」を読み、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめています。面ファスナーは、国際宇宙ステーションの中でどのように使われていますか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 面ファスナーのよさを取り上げて、国際宇宙ステーションの中での使われ方について書くこと。
- 「資料」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 五十文字以上、七十文字以内にまとめて書くこと。

招川さんのような簡潔な書き方なので、使っても使わなくてもかまいません。内容は、適切な言葉を使いましょう。お金の印から書きましょう。どちらでも行を交えて、続けて書きましょう。

この設問は、

目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約できるかを確かめる問題です。

本校児童の解答傾向

- ① 2つの内容について記述すべきところを、「国際宇宙ステーションでの使われ方」の1つだけ解答している。
- ② 「面ファスナーのよさを取り上げて」はいるが、簡単な記述で終わり、説明としては不十分なものになっている。

この設問に対する誤答が、本校では一番多く、これは全国と同様の傾向を示しています。

なお、この設問の無解答率は全国と同等の数値です。6年生が、設問に対して積極的な姿勢を見せていることが読み取れます。

条件の1つ目は「①面ファスナーの良さを取り上げて、②国際宇宙ステーションの中での使われ方について」書くように指示しています。

これを、書く内容が「2つ」と判断したか、①を前提ととらえて、「②のこと1つ」を記述するか、の判断が大切になります。

記述解答を見ていくと、だいたいの内容把握はできています。ただ、問題に対する的確な解答として書けていないのが現状です。また、条件を必ず満たす解答は、今後の取り組みの課題ですので、意識した指導をしていきます。

今後の国語の学習に向けて

学年が上がるにつれ、説明的文章の読解が重要になってきます。文章が長くなり、使われる単語も難しくなりますが、その読解で使う基礎知識は、小学4年までにほぼ学習します。

- | | | |
|------------|---|------------------------------|
| ① つなぎの言葉 | … | 文や段落の関係や順序性をつかむ |
| ② 問いの理解 | … | 何について考え、答えるのか。最後まで問いをしっかりと読む |
| ③ 事実と意見の区別 | … | 筆者の考えなのか、考える材料になった出来事なのかを分ける |

この3つを意識すると、文章中の大事なポイントがつかみやすくなります。

6年生では家庭学習に新聞記事を活用し、記事の要点について自らの考えを記述する取り組みを行っています。初見の文章を読み取る練習として、新聞記事は最適な文章です。

また、本校の授業では「ペア学習」「グループ学習」の場面を設定し、自分の考えを言葉にして相手に伝えるとともに、相手の考えにしっかりと耳を傾けることに取り組んでいます。

新型コロナウイルスの影響でしばらく積極的には取り組めませんでした。コミュニケーションを通して他者意識を持つことは、筆者の考えを読み解くうえで大切な力です。

耳を傾けることで文章をしっかりと読む意識につなげる取り組みを進めていきます。



高

台

千歳市立高台小学校 学校通信
全国学力・学習状況調査詳細版



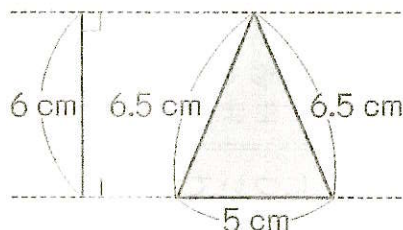
令和3年度 全国学力・学習状況調査結果から考える〈算数〉

保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動にご理解とご協力をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

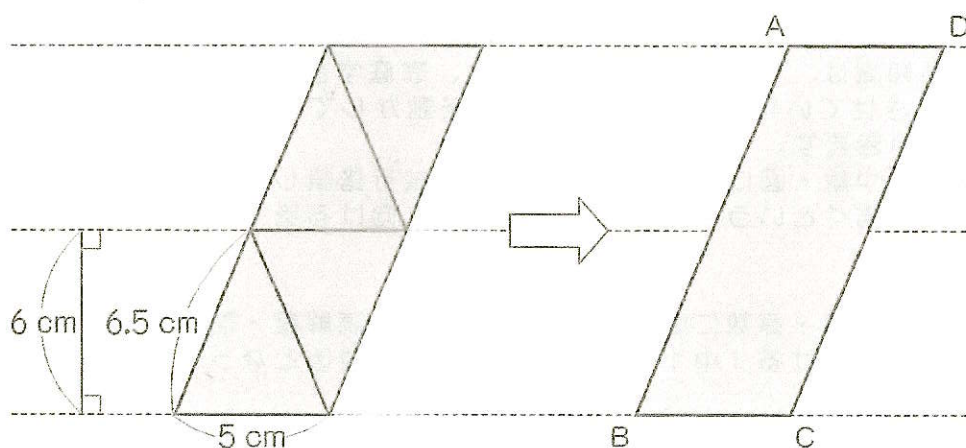
さて、本年5月に実施した全国学力・学習状況調査の結果概要を先日お知らせしましたが、この号では算数で注目した設問を通して、今後に向けた考えをお伝えいたします。

【設問】算数 **2** (3) … 正答率27.3% 無解答率0%

(3) 次のような二等辺三角形があります。



上の二等辺三角形を4つ使い、次のように、同じ長さの辺どうしを合わせて、平行四辺形ABCDをつくりました。



平行四辺形の面積の公式を使って、平行四辺形ABCDの面積を求めます。

辺BCを底辺としたときの面積の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、平行四辺形ABCDの高さをどのように求めたのかわかるようにしましょう。

また、平行四辺形ABCDの面積が何 cm^2 になるのかも書きましょう。

この設問は、

複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方をとらえて、面積の求め方と答を用いて記述できるか。

を確かめる問題です。

本校児童の解答傾向

- ①高さを6.5cmの二つ分ととらえている誤答が多い。
- ②式・解答のみの記載で、説明の記載がない。

この設問が、本校で一番誤答の多かった問題です。正答や他の誤答等の解答傾向は全

国と同様の傾向を示しています。その中で、無解答率は0%。今までの知識を総動員して、積極的に問題に取り組もうとする姿が読み取れます。

誤答の多くは、平行四辺形ABCDの「斜辺の長さ」を「高さ」と考え、「6.5cmの二つ分」ととらえているものでした。

また、②のように、内容は理解していても、記述で誤答となる場合が多くみられています。

今後の算数（図形）の学習に向けて

図形の把握では、補助線を引いたり、三角形や長方形等簡単な図形に分けて考えるなど、柔らかな発想・工夫が大切です。数量でも図形でも「こうしたらいいかも」という発想は、それまで学んできた事柄の思考過程を活用して生まれます。

- 図形の構成要素（底辺・高さ 等）について、しっかりと理解する。
- 公式のみを覚えるのではなく、授業で「どうしてそのようになるのか」という過程を、担任や仲間とともに考え、自らの考えを深める。
- 自らの考え・仲間の考えをプリント・ノートに記述しながら、自分の思考を整理する。

ICTの活用が重視されている現在、子どもたちが試行錯誤する考えを視覚化できる機器は有効活用していきたいと考えています。図形では、特に有効になると考えています。

同時に、この設問のように、算数においても自分の考えを書き表すことが重視されます。

基礎基本となる知識は、授業はもちろんのこと、家庭学習等を通して繰り返し練習することでしっかりと定着させていきます。同時に、「手を動かして書く」ということも大事にして、取り組みを進めていきます。

考えたことを文字や絵・図に表す。それを見て、試行錯誤し、自分の考えを深めていく。自分の手で書く・描くということが、ICT活用に向ける第一歩と考えます。

まとめ

中学校に入ると、国語・算数に限らず全教科で設問・読解量・記述量が急激に増えます。そのことが、学力における「中1ギャップ」の大きな要因となっています。

本校で推進している「美しい日本語」。表現の丁寧さだけではなく、コミュニケーションを図ろうとする互いの姿勢が大切です。「美しい日本語」を通して、他者意識をしっかりと持つ。相手の声に耳を傾け、相手にわかりやすく伝えるために、順序よく、丁寧に、工夫した表現を使う。学年が上がるにつれ、話し言葉よりも書き言葉の比重が大きくなりますが、その根本は同じです。テスト・諸検査は、書き言葉の最たるものです。

学校生活での何気ない繰り返しが、児童の持っている学力を今以上に成長させます。

自ら取り組もうとする意識は、さらにその力を確かなものにしていきます。

これからも、本校は「美しい日本語」を指導の中心に据え、学習面・生活面ともに子どもたちの力を伸ばしていくよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。